

## 二学期始業式を迎えて

# 自らの進路を切り開こう

長い夏休みが終わりました。終業式で「体験する夏」、「挑戦する夏」にしようと言いました。学習に、部活動に、出高祭に挑戦的に取り組みましたか。3年生は進路実現に向けて一日10時間の学習ができましたか。9月以降、就職と進学の実験が始まります。積極的、主体的に取り組んで目標の進路を勝ちとってください。

さて、今日はその進路について考えたいと思います。

高校で進路というと、以前は就職と進学の見通しを決めることを指していました。しかし、最近ではキャリア教育という言葉が使われ、小学生から学ぶものとなりました。たとえば、自分の町には消防署がありパン屋さんがあり、それぞれで大人が働いています。そうした社会の成り立ちや職業ことを知ることが、すでにキャリアに関わる勉強なのです。学校以外でも、西宮市にはキッザニア甲子園という仕事に関する民間の体験施設もあります。

兵庫県の中학생はトライやるウィークで実際の仕事を体験します。

高校生になると、もっと具体的に、**将来のなりたい自分を思い描き**、それから逆算的に進路を選択していきます。たとえば、弁護士という職業にあこがれたとします。弁護士は具体的にどんな仕事かを調べると並行して、弁護士になるにはどういう勉強しなければならないかということを探します。司法試験という難しい試験に合格するために、大学の法学部と法科大学院で勉強をしなければなりません。そしてそのために、高校生は今、法学部合格のための勉強をする必要があるのです。4月に言いましたが、目標があればしんどいことも頑張れるわけで、勉強にいつそう身が入るのです。

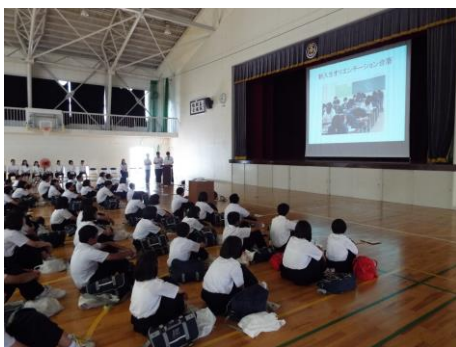
さて、自分のなりたい将来像を描くことと並んで必要なことは、**自分の特性、能力を客観的に知る**ことです。つまり、自分は何に向いているのか、何ができるのかということです。模試の偏差値は能力を測る指標のひとつです。パソコンの得意な人がいます。肉体労働で体を使うことなら任せろという人がいます。それぞれの人が持つその特性や能力を客観的に見て、それを生かして活躍しようというのです。

しかしながら、実力や成果が遅れて現れる場合があります。たとえばマラソンランナーの川内優輝選手は、学生時代まで日本を代表するような選手ではありませんでした。大学卒業後埼玉県の職員となっても毎日走り続け、毎週のように試合に出続けました。仕事との両立で、時間を有効に使い集中してトレーニングするようになったと言います。すると走力が急にアップし、実業団で専門的に走っている選手より良い成績をおさめ、先日の世界選手権で9位になったのです。彼は長い距離を走ることに適性がありましたが、学生時代はそれほどの成果を得られませんでした。しかし何より走るのが好きで、それに集中し継続することで能力が一気に開花したわけです。

何になりたいかは自分の意思、気持ちです。何が向いているか、何ができるかは冷静に自分を見つめるもう一人の自分です。両方の自分になって進路を切り開きつかみ取ってください。高校卒業後の進路は個々ばらばらですから、指示を待っていては手遅れになります。

さて、3年生はもう必死に頑張ってください。1、2年生は私が言ったことをじっくり考え、意欲的に取り組んでください。

今日から始まる二学期に君たちが活躍してくれることを期待します。



オープンハイスクールで生徒会が説明 (8/2)



弘道わくわくクラブで小学生に教える (8/7)



谷山川のミズアオイ移植作業 (8/9)